



TITLE:

# 学際を叫ぶ矛盾への挑戦

AUTHOR(S):

宮野, 公樹

---

CITATION:

宮野, 公樹. 学際を叫ぶ矛盾への挑戦. 東京大学農学部国際交流促進プログラムセミナー 2018

ISSUE DATE:

2018-11-28

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/235755>

RIGHT:

発行元の許可を得て掲載しています。

2018年11月28日@東大農学部

## 学際を叫ぶ矛盾への挑戦

京都大学学際融合教育研究推進センター  
宮野公樹

### 自己紹介

京都大学 学際融合教育研究推進センター 准教授

国際高等研究所 客員研究員

学問論、大学論、異分野融合、科学技術政策哲学（かつて、金属組織学、ナノテク、医工学）

総長学事補佐（松本前総長時代5年間）、文科省科学技術振興局学術調査官（4年間）

この場に立つ想い

僕なりの学問論、というか学問がこれ（今日の話）なんです。

論文書けば学問なの？  
学会発表したら学問？

研究と学問は違う

研究は有。学問は無。

断じて研究を否定しません。が、大学でやる以上は学問でない

20181029現代ビジネスWEB記事：  
最近の「大学改革」論議がどうでもいいと思えるのは一体なぜ？

### 矛盾とは・・・

この世のすべてにおいて何かと融合してないものなど一つも無い

結局、異分野融合（学際）を語るのは学問を語るのと同値

学際！学際！と叫ぶのは、学問本来の形から外れた証拠

ちなみに、教養！教養！と叫ぶのも同根

なぜ細分化になるの？  
その正しい認識が重要

昔：この道30年。今：「わたし、もともと○○分野でして・・・」

専門主義：厳密解を得ようとするれば環境条件が狭まる

論文主義：オリジナリティーをもとめる

相対主義：相互検証不能ならますます

がんばるほどディスコミュニケーションが進む構造をつくってしまっている

異分野連携は「協力」、異分野融合は「対立」

1937年三木清の言葉

専門家たるもの、突き詰めればおのずと基礎たる哲学に接触するのは当然とし、自分の専門の意味をその外に立つことによってよりよく反省せんがため、あるいは自分の保持する原理の包括力および影響力を種々の分野において試さんがため、他分野と接触することを余儀なくされるもの

専門分野などないとして活動してる（生きている）。できる限りのできる範囲でダイモンに嘘つかずにやっているだけ

部屋1つ専任教員1名。なのに年間10大学以上が視察

ここ一年でラジオ1回、テレビ2回、新聞記事3回、  
Twitterのバズワード入り1回、ヤフーニュース掲載3回

失敗もたくさんある。一回で終わった企画也多。

ユニット

教員のサークル活動。現在36ユニット。人事や単位認定の支援。拘束しないが金もださないw

ねらい：確執化した現制度からの解放。来年度からJ2リーグもw

定例開催異分野交流会

いつもの時間いつもの場所で。5年目。10人→30人に

ねらい：土を耕すようにひたすらやりつづける苦行

京大100人論文

あなたの得意は誰かの不得意、あなたの不得意は誰かの得意。ギブアンドテイク

ねらい：身内で知り合いが多い方がいいに決まってる。学祭センターモデルとして、横国、茨木、北大、日本学術会議などに感染中

学際研究着想コンテスト

異分野でチームを組んで応募。賞金100万ぽっちだがそこにあるからくり。研鑽の場

ねらい：いきのいい研究者の脳内にくさびをうっておく。ガチ研鑽の場

全分野結集型シンポジウム

全79分野が集まってメタなテーマで本音議論。ただしチャットで

ねらい：我々は真理なるもののひとかけらでしかない。学者魂のガチ研鑽場

WS支援事業

「いつかこのネタでワイワイやってみたかった」という研究者に金と知恵

ねらい：研究者発掘のためのマーケティング

京大100分野WS

個別技術ではなく学問での産学連携。新規事業創出のお手伝いという名の企業人研鑽の場

ねらい：この世で影響力があるのは企業体ゆえ

学術分野ごとの文化比較大調査

あなたにぴったりの学問みつけますNaviSchola

ねらい：異分野融合とかいうけど、まるでお互いのプロフィールすらしらないのに強制的に同居させられるようなもの。それで愛は生まれるか？

なぜうまくまわっているのか

一人だから自己責任ですべてイケる：笑 信じる事には責任とれる。  
理解ありかつ信頼おける重田センター長や総長、副学長たち

うまくやろうと思ってないから。Not企画屋

あと失敗も一杯してますw

コデ イネーションしてる気は無い

### おわりににかえて： 「方法」と聞いて思うこと

こんな話して何かためになるのかとても不安

方法も目的もありゃしません。

それらに区別つけられないところで勝手に動いている

この域では困るんです

京大&京芸のコラボ企画で 説明する京大、表現する京芸。  
心を動かされたほうは言うまでもない。

若手研究者が集まった 細胞研究者「この世を表現したくてこの研究を  
ポスター発表にて やってる」←え？

「方法」とは何か

本居宣長「うい山ぶみ」より『いかならむうい山ぶみの  
あさごるも 浅きすそ野のしるべばかりも』

言葉と心の一致。正しい言葉は必ず心と一致します。そういうやりとりのみが成長させてくれる